

関西支部局だより

堀江 珠喜

(協会副会長・園田学園女子大学助教授)

皆様の御理解と御協力のおかげで、関西支部局も、2年めを迎えることができた。世紀末セミナーも順調に続き、昨年5月18日には川崎淳之助会長による『世紀末の社交界とワイルド』というテーマで、当時の演劇界、パリやロンドンの様子などのお話をうかがった。英文学会への往路に立ち寄ってくださった関西以外の会員の方々や、卒論にワイルドを選ぼうという若い学生達で、熱気に満ちた初夏の夕べであった。

また10月26日には、玉井暉先生が『ホイッスラーと世紀末芸術』について講演して下さった。美しいスライドと、この画家の毒舌とダンディズムのお話は、大変興味深かった。さて1991年5月10日(金・仏滅)の夜には、山田勝先生が、ベル・エポックについて語ってくださる予定になっている。最近出版された本『回想のベル・エポック』について、また裏話が飛び出すのではと、秘かに期待している次第である。

毎回、会員は5名前後増え、現在35名、特に形式ばった組織はまだ構成していないが、土地柄に合わせて、関西風味付けでしばらくはやっていきたいと考えている。

最後になったが、支部局を置かせていただいているホテルゴーフルリッツの本社、神戸風月堂の下村光治社長が9月に亡くなられた。ここにつつしんで哀悼の意を表したい。後任の下村俊子社長が、このたび支部局に入会して下さった。今後ともお世話になることと思われるが、地域文化の育成という意味でもよろしく願い申し上げたい。

なお支部局でもワイルド関係の論文を集めているので、抜刷等、是非下記にお送りいただきたい。

〒650 神戸市中央区港島中町6-1 ホテルゴーフルリッツ サロン・デル・リプロ 日本ワイルド協会関西支部局 phone (078) 303-5555 (代表)

ワイルド書誌

伊藤 勲 「ペイターとワイルドの間」 『ペイター——美の探求——』 永田書房
1987年 126—177頁

オスカー・ワイルド 「SYMPHONY IN YELLOW; FROM SPRING DAYS TO

WINTER」 山川瑞明編 ON SUCH A DAY あぼろん社 1989年3月20日

長谷川 擢 「季語について」 『俳句の宇宙』 花神社 1989年10月15日 33頁

阿佐美教子 「利休とワイルド——死の選択——」 『実践英文学』 (実践英文学会)

第36号 1989年12月

唐沢 尚子 「日本における戯曲『サロメ』受容の研究——日本人による初演について——」 『演劇学』 (早稲田大学演劇学会) 31号 1989年

大川 裕 「Salome 成立過程」 『英文学論叢』 (日本大学英米学会) 38号 1989年

加藤 文彦 「諸リアリズム——Wordsworth, Woolf, Wilde たちと作る歴史 (2)」 『神戸英米論叢』 (神戸大学) 3号 1989年

八村 伸一 「Oscar Wilde's Aestheticism and Hedonism in *Intensicns and De Profundis*」 『現代英米文化』 (桐原書店) 20号 1989年

林 和 仁 「水鏡と肖像——ナルシズムと自己認識」 『論集』 (神戸女学院大学) 106号 1989年

堀江 珠喜 「オスカー・ワイルドのコント」 『論文集』 (園田学園女子大学) 24号 1989年

M. Philomene 「The Search for Lost Childhood in the Works of Oscar Wilde」 『論集』 (人間・言語・情報) (東北学院大学) 96号 1989年

荒井 良雄 「シェイクスピアとワイルド」 『LDノート』 No. 587 総合労働研究所 1990年1月

岡崎 一 「Oscar Wilde と日本の経済学者達」 『英語英文学思潮』 (NCI) 1990年1月

無 署 名 「一つのテーマ、熟すまで待つ: ペイター基点にイギリス世紀末探る——『ダンディズムの世界』 前川祐一さん」 『著者に聞く』 東京新聞 1990年3月25日

山口 哲生 「『獄中記』におけるワイルドのイエス観再考」 活水論文集英米文学・英語学編 (活水女子大学・短期大学) 第33集 1990年3月31日

富士川義之 「前川祐一著『ダンディズムの世界』」 『中央公論』 中央公論社 1990年4月号

無 署 名 「書評ホルブルック・ジャクソン著・澤井 勇訳『世紀末イギリスの芸術と思想』 毎日新聞 1990年4月23日

荒井 良雄 「資料としての価値も高い労作——『「サロメ」の変容』 産経新聞 1990年6月1日

- ロングマン・クラシックス版 (テキスト+テープ2本) 『(302) 幸福な王子』 英文朝日
1990年7月
- ピーター・アクロイド著, 三国宣子訳 『オスカー・ワイルドの遺言』 晶文社 1990年
7月
- 無署名 「書評『オスカー・ワイルドの遺言』」 毎日新聞 1990年7月23日
- 無署名 「書評『オスカー・ワイルドの遺言』」 読売新聞 1990年7月30日
- 澤井 勇 「前川祐一著『ダンディズムの世界——イギリス世紀末』」 『英語青年』
研究社 1990年8月号
- みわはるき 「母系の探索」 『現代アーティストセンター NEWS』 (現代アーティストセ
ンター事務局) No. 5 1990年8月21日
- 千葉 剛 「ヒロイックな営為の悲劇——ピーター・アクロイド著, 三国宣子訳 『オ
スカー・ワイルドの遺言』」 『図書新聞』 1990年8月25日
- 無署名 「小澤「サロメ」13日から上演」 朝日新聞 1990年9月4日夕刊
- 丸谷 才一 「新しさに欠ける『剽窃者』ワイルド像——『オスカー・ワイルドの遺言』」
『週刊朝日』 朝日新聞社 1990年9月7日
- 小野寺 健 「独白の形で19世紀末の異才描出——『オスカー・ワイルドの遺言』」 公明
新聞 1990年9月10日
- 吉田 秀和 「歌の素晴らしさ聴衆圧倒 踊りなくても堪能 オペラ「サロメ」」 朝日新
聞 1990年9月17日夕刊
- 河村錠一郎 「ピーター・アクロイド著・三国宣子訳『オスカー・ワイルドの遺言』『マ
リ・クレール』 11月号 中央公論社 1990年10月
- オスカー・ワイルド・山田勝注 *Lady Windermere's Fan* 北星堂 1990年10月20日
- 西村 孝次 「生きているワイルド」 『英語青年』 研究社 1990年11月号
- 西村 孝次 「きれいな心——最近のワイルド文献——」 『学燈』 丸善 1990年11月
号
- 引地 正俊 「井村君江著『「サロメ」の変容——翻訳・舞台』」 『英語青年』 11月号
研究社 1990年11月1日
- 無署名 「英ウェルシュ・ナショナル・オペラ初来日 「フェルスタッフ」など新演
出で」 朝日新聞 1990年11月1日夕刊
- 名和 修 「「三四郎」の見た幻影(上) 文豪と天才画家の「宿命の女」」 『日本経済
新聞』 1990年11月17日
- 山田 勝 『回想のベル・エポック——世紀末からの夢と享楽』 日本放送出版協会
1990年11月20日
- 安部 高樹 構成「ソフィア美術館——名画の中の女たち サロメ「運命の女」の原型」

- 『SOPHIA』 12月号 講談社 1990年12月1日 189—196頁
- 梅津 義直 「Salome における Oscar Wilde の美学の諸相」 『尚絅女学院短期大学
研究報告』 (尚絅女学院短期大学) 第37集 1990年12月
- 無署名 「ワイルドの野心」 『文藝春秋』 12月号 文藝春秋社 1990年12月
- 高橋 祥恵 「『サロメ』の台詞について——躍動する“間”——」 『ケイオスモス』
第2号 1990年12月
- 川崎淳之助 「「表面と象徴」の美学——『サロメ』考——」 『聖徳大学研究紀要人文学
部』 (聖徳大学) 第1号 1990年12月
- 岡崎 一 「Oscar Wilde と音楽」 『研究論集』 (東京都立商科短期大学経営学科)
18号 1990年
- 加藤 文彦 「眺めよい「ラヴェンナ」, またはある人口廃墟 (フォーリー)」 『英文学
論叢』 (京都女子大学) 33号 1990年
- 井村 君江 「サロメ, 純粋でありすぎた王女」 『図書』 1月号 岩波書店 1991年
1月
- 三輪 春樹 「眼差しの崩壊——試論 Oscar Wilde *The Happy Prince* 中の「見る」
ことについて——」 『跡見学園短期大学紀要』 (跡見学園短期大学) 第57
集 1991年1月20日
- 前川 祐一 「オスカー・ワイルド——イギリスのデカダンス(13), (14)」 『英語青年』
4月号 (1991年3月1日) ~ 5月号 (1991年4月1日)
- 千葉 剛 「ワイルドのウイット」 『一般教育学術集報』 (東京農業大学) 第21号
1991年5月
- 木原 武一 「ワイルド——ドリアン・グレイの肖像」 『週刊新潮』 1991年5月2・
9日号 新潮社
- 堀内 正子 「ワイルド『サロメ』一考」 『昭和薬科大学紀要』 (昭和薬科大学) 第
25号 1991年5月
- 木村 克彦 『ワイルド作品論』 新潮社 1991年6月

協会・会員消息

- ◆『朝日新聞』(平成2年11月29日付, 夕刊)の「あすは」の欄に次のようなワイルドの
言葉が紹介された。「あまりにも有名なものばかりで気が引けるのですが, オスカー・ワ
イルド(11月30日没)の言葉からいくつかを。「老人はすべてを信じ, 中年はすべてを疑
い, 若者はすべてを知る」「学ぶことのできない者が, 教えることを始める」「真理は,